

# 報告

## 中部支部集会の報告

伊藤信成（三重大学教育学部）

### 1. はじめに

平成 25 年度の中部支部会は平成 26 年 5 月 10 日午後から 11 日午前までの 2 日間、三重県亀山市の関ロッジおよび鈴鹿峠少年自然の家で行われた。鈴鹿峠少年自然の家は廃校になった小学校を利用した施設であり、文化庁の登録有形文化財に指定されている（図 1）。この敷地の一角には、口径 40cm の反射望遠鏡を備えた天文台「童夢」が併設されている。静かな谷あいの風景が広がり、ゆったりとした空気が流れる中での支部会となった。今回の支部会には 22 名の参加者および 15 件の発表があった。また、「童夢」天文台を中心に活動している坂下星見の会のメンバーや中国からの留学生を含め、全参加者の半数を超える 13 名が支部会初参加というフレッシュな雰囲気の支部会となった（図 2）。



図 1 2 日目の会場となった旧坂下小学校校舎（左）と天文台「童夢」（右）



図 2 1 日目参加者の集合写真

### 2. 内容

今回の支部会では特にテーマを設けず、参加者各自の研究発表を募った。

#### 2.1 初日のプログラム

・「月の満ち欠けの理解度は分数の理解度より低いか？」

伊藤信成（三重大学教育学部）

・「今どきの生徒の天文学の疑問質問  
～中学 3 年生アンケートから～」

船越浩海（ハートピア安八天文台）

・「愛知教育大学における天文教育・普及活動の現状」

沢 武文（愛知教育大学）

・「コルキットで自動追尾太陽投影板」

所 阜男（坂下星見の会）

・「日本手話による天文学習教材」

嶺重 憲（京都大学理学部）

・「10 億個の星を再現する天体望遠鏡観察が可能な『GIGASTAR（ギガスター）』プラネットリウム開発プロジェクト紹介」

間瀬康文（ギガスター実行委員会）

・「天文教育のユニバーサルデザインに関する試み」

間瀬康文（ギガスター実行委員会）

・「気軽に星空写真を撮ろう」

船越浩海（ハートピア安八天文台）

・「坂下星見の会の活動の様子」

瀧本麻須美（坂下星見の会）

・「フルカラー LED による恒星の色再現」

塩津朱里（名古屋市立大学）

・「観望会告知における SNS の活用と効果の検証」

前田昌志（松阪市第五小学校）

## 2.2 観望会

初日の夜には、坂下星見の会が主催する一般市民を対象とした観望会に参加した。観望会では「童夢」の40cm 望遠鏡での木星、土星の観望や、星見の会会員による夜空解説、プロジェクタを用いた天体写真の投影等が行われた。

## 2.3 2日目のプログラム

- ・「三重県環境学習情報センターの星のソムリエ事業」

水谷雅寛（アクティオ）

- ・「明治時代金星の太陽面通過の地を巡る  
～神戸と横浜から～」

斎藤秀樹（長野市立博物館）

- ・「プラネタリウムドーム製作・光害調査  
～一宮高校地学部の活動から～」

高村裕三朗（愛知県立一宮高校）

- ・「月食写真で三重県を描こうプロジェクト」

伊藤信成（三重大学教育学部）

## 2.4 討論

今回の支部会では初参加者が多かったことから、支部会の締めくくりに行った討論では、初参加の方から見た支部会の印象を話してもらい、今後の支部会運営の参考とすることにした。13名の中南部支部会初参加者参加者の内、討論の時間まで出席できたのは9名であり、以下のような意見が出た（複数回答あり）。

- ・とても刺激的だった。
- ・教育的側面からのアプローチが大切。
- ・学会のような雰囲気を予想していたが、溶け込み易かった。敷居が高くなかった。
- ・これまで自分自身が満足することで終わっていたが、普及活動について知ることができ良かった。
- ・ポスター発表ができると良い。

- ・東海地域は一般の人の天文意識が高いと感じる。星に触れる機会が多い地域。
- ・身の回りに普及活動をしている人は少ないと思っていたが、多くの人が活動していることを知り心強く感じた。
- ・分野の違う人達とも連携し、活動の幅を広げていきたい。
- ・宿泊するので深い議論ができる。宿泊の形態は継続して欲しい。
- ・学生・女性の参加が少ないのが残念。
- ・専門用語（特に写真関係）が多く、ついていくのが大変。難しかった。

以上のように、好意的な意見が多かったものの、学生や女性の参加、専門用語の壁など、いくつかの課題が挙げられた。学生の参加に関しては、中部地域は関東や関西のように大学が密集していないので、大学間での学生の連携がとり難い面がある。個々の大学で単独あるいは少人数で活動している学生等にも本会の活動を知ってもらい、気軽に情報交換ができるような場を作っていくことも必要かもしれない。

## 3. おわりに

中部支部会は参加者が同じ宿に宿泊し、ナイトセッションを含めて議論をすることが特徴の1つである。特に今回は多くの初参加者があり、交流を深めることができた。この機会を活かし、中部支部の活動の活性化を図っていきたい。

伊藤 信成